

知事と政策連携団体代表者の意見交換 議事概要

1 団体名

(公財) 東京都スポーツ文化事業団

2 実施日時

令和元年7月12日(金) 10時45分～10時57分

3 出席者

- ・団体側出席者：並木理事長、安藤常務理事、
小室スポーツ推進部長(オリパラ局)、
谷企画調整担当部長(教育庁)
- ・都側出席者：小池知事、遠藤総務局長、武市財務局長、
小林行政改革推進部長

4 議事概要

○小池知事

スポーツ実施率の目標である70%を達成するために、今後どのように取組を進めていくのか。

○並木理事長

スポーツ実施率の低い働き盛りの世代や女性など、ターゲットを絞って、施設ごとにきめ細かく対応するのが一番と考えている。具体的には、簡単に体を動かせるジョギングとかランニング、それから子育てしながら子供と一緒に楽しめるフットサルなど。

高齢者も今後さらに増えていくので、コミュニティ事業のほか、高齢者向けのコンディショニングトレーニングなどを具体的にやっていきたい。

○小池知事

そうした事業を進めていくためには、事業団の人材育成も重要であると思うが、どのように進めていくのか。

○並木理事長

組織体制・人材育成プランを今年の3月に策定した。職員に対するモチベーション付けを行うとともに、都派遣職員、事業団の固有職員、契約職員、

それぞれの役割を整理し、基本的には固有職員のスキルアップを目指し、企画調整能力の強化を含め、取り組んでいる。

○遠藤総務局長

事業団の施設は都の施設であり大型施設なので、実際に近所で体を動かそうと思うような施設となると、どうしても市町村連携が必要になってくるかと思うがいかがか。

○並木理事長

都民の要望に沿った施設を紹介する事業で、区市町村を含めた施設をデータベース化しており、紹介をしている。また、区市町村からの指導者の派遣要請に応じていくということで、コンシェルジュ事業の準備をしている。

○小池知事

野球場などの都内スポーツ施設の予約において、競争が激しいと聞くが、区市の管理する施設も含めてアプリ一つで予約をできるようにするなど、工夫して進めて行ってほしい。

また、シニア世代には、ダンス、囲碁、将棋、カラオケ、健康マージャンなど、楽しめる居場所があることが重要。区市町村でも取組を進めているので、うまく連携して進めてほしい。